

# 2023年度事業実績報告

社会福祉法人アタイハートネットワーク

## 事業実績 目次

基本指針

法人としてありたい姿

重点目標 2023年度

法人事業に関する概要

### 【事業評価関係】

子どもサポート事業の評価

大人サポート事業の評価

事業所別 新規利用及び退所等動態報告

## 基本指針

### 利用者に対して

- 個別性の尊重
- 選択と意思決定のサポート
- 生活のしやすさ、生きやすさの追求可能な環境

### 職員に対して

- はたらきがいある職場環境
- はたらきやすさのある職場環境
- キャリアアップの実現可能な環境

### 地域に対して

- 横断的、重層的に人がつながる共生文化への貢献
- 人材・環境資源としての貢献

### 法人として

- 法令順守
- 統治
- 財務規律
- 透明性
- 信頼ある組織

# 法人としてありたい姿

子どもから大人まで

こころを寄せあい、支えあい、協力しあい実現すること

- (1) 自然環境に注目、子どもが学びたくなる環境
- (2) 潜在能力に注目、障害のある人の自律と自立を支える環境
- (3) 豊かな知恵、知識や技術に注目、シニア人材化
- (4) 地域資源に注目、農・福・企業等の連携・協働のしくみづくり
- (5) 共助文化に注目、土壌から食卓までの人のつながりをつくる



社会福祉法人アタイハートネットワークの事業概要			
1 相談支援サービス	(1)地域生活支援センターみらい	総合相談	子どもニーズ・家族ニーズに対する相談
		障害児相談支援事業	障害のある子どもニーズに対するトータルサービスの相談
		障害者相談支援事業	障害のある大人ニーズに対するトータルサービスの相談
2 子どもサポート事業	(1)子ども自然図書館	子どもの居場所事業	子どもの安心ある環境、家族の経済的自立支援
		子ども・若者サポート事業	子ども・若者社会参加サポートに関する相談・支援
		放課後等デイサービス事業	学齢期の障害のある子どもの放課後サポート事業
3 大人サポート事業 居住系サービス	(1)本部海陽園	入所支援事業	居住環境サービスの提供、地域移行サービスの提供
		生活介護事業	生活リハビリテーションの提供
	(2)ライフサポート縁	共同生活援助事業	共同生活を通して自立をサポートする事業
		自立援助事業	自立生活をサポートする事業（独立した個別生活）
4 大人サポート事業 活動系サービス	(3)本部海陽園	生活介護事業	職業訓練、自活訓練
	(4)アガチュンもとぶ	就労継続支援事業	職業準備訓練、福祉的就労
		就労継続支援事業	職業準備訓練、福祉的就労
	(5)まちやーゆいとびあ	就労移行支援事業	一般企業等への就職活動支援事業
		就労定着支援事業	安定的な職業生活をサポートする事業

## 重点目標 2023年度

3年余の長期に渡る新型コロナウイルス感染症流行は、今なお、私たちの日常生活に大きな影響を与え続けている。特に、感染対策に伴う自粛生活、社会活動の制約などを背景に運動不足による生活習慣病等にかかる通院、治療の必要性が増加している。一方、その対応に大きく時間が割かれ、本来あるべき生活支援や就労支援に関するサポート業務の足かせにもなっている。さらに、健康問題は、各事業所の財務状態へ直接的な影響もあり、健康管理サービスの質向上が求められている。

今年度、改めて、一人ひとりの利用者、職員が「からだところの健康生活」「命を守る」をテーマ掲げ、運動生活を取り入れた活動の質を高めるため健康関係サービスの強化を図ることとする。定期健康診断の結果に関するデータ整理、分析による個別の健康状態の適切な理解、さらに主治医からの食事療法、運動療法等の評価を「生活リハビリテーション」と位置付けることとする。

具体的な健康管理サービスは、定期健康診断の評価に基づいて、個別支援計画、リハビリテーション計画を策定して取り組むこととする。

### 【目的】

「健康生活をつくる」「命を守る」

### 【内容】

- (1)一人ひとりのコミュニケーション機能（理解可能な言語）に合わせた説明と同意
- (2)感染予防に関する生活スキルの獲得
- (3)運動療法による生活習慣病の予防と対策の実施
- (4)食事療法による生活習慣病の予防と対策の実施
- (5)定期健康診断及び主治医による定期検査の実施

### 【方法】

- (1)看護師による生活習慣病の予防と対策計画、実施
- (2)栄養士による食事療法計画、実施
- (3)作業療法士による運動療法計画の策定、実施
- (4)身体機能リハビリテーション ➡ 重症化、介護予防
- (5)生活スキルリハビリテーション ➡ 日常生活動作、手段的日常生活動作、作業動作
- (6)職業リハビリテーション ➡ ものづくり、作業活動、福祉的就労、一般就労
- (7)居住サービス事業と活動系サービス事業の個別支援計画による相互連携

## 法人事業に関する概要

法人		
1 事業活動の目的	(1)個別性が尊重される環境づくり (2)自己選択、意思決定の可能な環境づくり (3)利用者の目標が実現される環境づくり (4)からだところの健康をつくる (5)命を守る行動を学ぶ	(1)精神的な安定（安心）を保障 (2)多様な活動の選択可能なサポート (3)自己決定の可能なサポート (4)自己理解を深めるサポート (5)危機管理のサポート
2 事業対象	(1)子ども (2)大人 (3)職員 (4)地域環境（社会参加の基盤づくり）へのアプローチ	(1)学ぶ・遊ぶ・役割のある環境 (2)選択可能な生活・仕事環境 (3)サポートに関する知識、スキルの獲得 (4)事業として地域資源、人的資源環境の開発
3 利用者にとっての目標	(1)自律と自立 (2)個別的な生活の質向上	(1)主体的な社会参加 (2)生活のしやすさ（生活機能の向上） (3)生活の豊かさ（経済活動への参加）
4 目指す事業成果	(1)職員のキャリアアップ (2)仕事のやりがい (3)仕事のしやすさ	(1)利用者のキャリアアップ・ソフトランディング (2)知識とスキルの充実・姿勢と態度の質向上 (3)利用希望者の増加（安定経営）
5 主たる事業計画	(1)目的 「健康生活づくり」「命を守る行動」 (2)目標 「生活のしやすさ」「生きやすさ」のある環境づくり (3)内容 「生活習慣病の予防に関する学びと実践生活」 (4)方法 「生活スキルトレーニング（学び）」 「生活リハビリテーション（訓練）」	(1)生活のしやすい住環境 (2)仕事・活動のしやすい環境 (3)健康的な食生活 (4)健康的な運動生活 (5)生活習慣病の対策の実践
GHの設備に関する消防法の抵触課題		

## 子どもサポート事業の評価

### 【子どもサポート状況】

- (1) 放課後、学校以外の居場所として行政、学校等からの問い合わせが増加（心の病が隠れているケースがある）
- (2) 子育てに関する保護者交えた定期勉強会の開催
- (3) ペアレントトレーニング定期開催（本部町教育委員会）
- (4) 発達障害のある大人の定期当事者会
- (5) 高等学校に替わる居場所として相談が増加
- (6) 保護者との個別面談の実施
- (7) 家族支援<sup>①</sup> 感覚統合から触覚過敏・聴覚過敏⇒入浴支援の実施

### 【解決すべき課題】

- (1) 子ども主体のプログラム（子ども会議）の進め方の不十分
- (2) 中学生・高校生に対する心理カウンセリング、個別プログラム作成と実践の不十分
- (3) 感覚統合に関する学びとスキルの不十分

### 【課題解決策】

- ※子どもサポートハンドブックの活用方法の理解（支援プロセスの共有と表面化を図る）
- ※コミュニケーション<sup>②</sup> 困り感・相談ができる意図的な環境場面設定
- ※行動することへの「説明」と「同意」
- ※研修の必要性（障害特性とその対応）<sup>③</sup> 行動機能との関係（行動問題の事前対応 困りの原因→行動→結果）の理解
- ※2024年度事業計画の重点目標に掲げて実践する

## 2023年度 子ども第三の居場所事業における利用状況

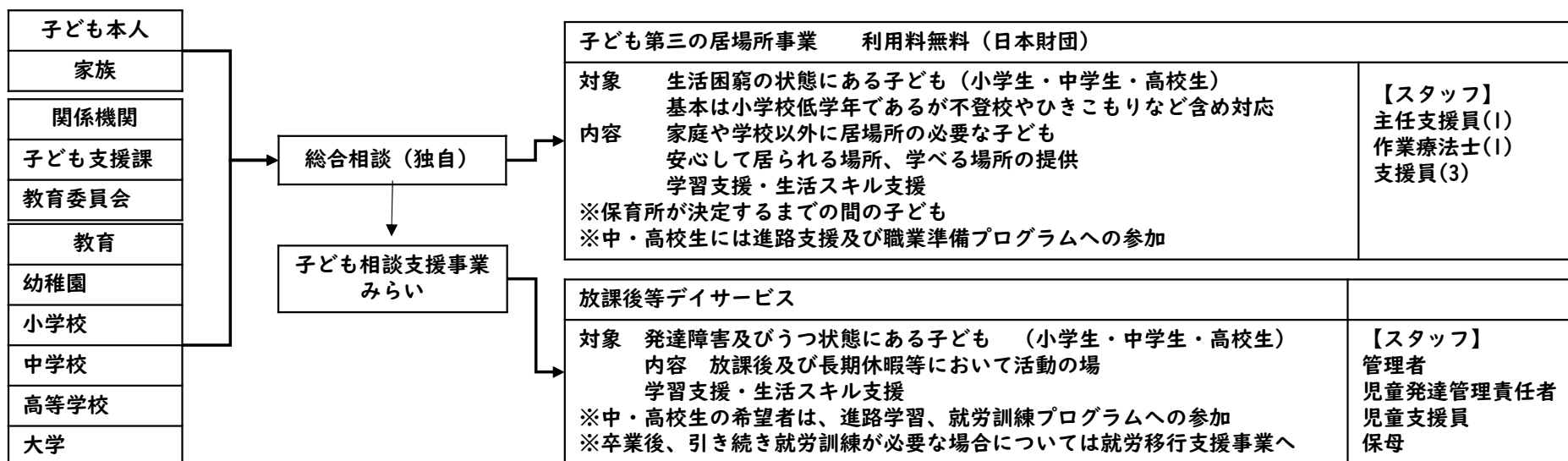
子ども第三の居場所事業			2021	2022	2023													
			合計	合計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
1	相談	本人	2	8					1								1	
		家族	33	9					1		1						2	
		学校	31	5			1											1
		行政	12	3	1	1						1						3
		その他	28	2														
		合計	97	27	2	3	1	0	0									
2	見学	本人	2	22	1	1	2	3	1						1		9	
		家族	32	22	2	2	1	2	2	1					1		11	
		学校	22	12	1	2												3
		行政	6	8	3	1	2		1									7
		その他	20	8					1									1
		合計	83	72	6	5	3	2	3	1								
3	利用	人数	119	236	41	37	45	48	43	46	43	41	45	45	36	42	512	
		延べ利用回数	543	1,248	366	381	420	446	303	433	430	443	393	383	422	405	4,825	
2021年度			事業に関する周知不足はあったものの総合相談の設置により、関係者に対する周知が広がった															
2022年度			学校等含め新型コロナ感染状況により利用控えなどの影響があったが、前年度と比較すると2倍の推移になっている															
2023年度			総合相談への中学・高校生本人や家族、学校関係者等からの相談が増加傾向にある															



## 子ども自然図書館の利用動態

子ども第三の居場所事業								
	利用	活動及び進路等状況						
		不登校	復学	保護	進学	転校	就職	就労事業移行
2021/03/31	20	3	9			1		
2022/03/31	32	7	4		1		1	1
2023/09/30	48	18	4	1		1		

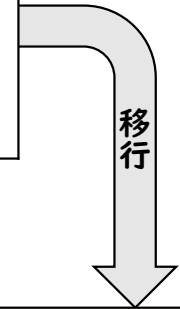
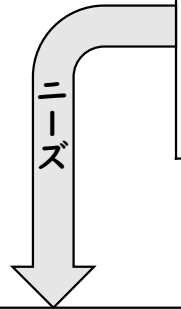
## 自然図書館の業務連携



# 子ども図書館の事業変遷

2021~2024/3月末

子ども第三の居場所事業 利用料無料（日本財団）	
対象	生活困窮の状態にある子ども（小学生・中学生・高校生） 基本は小学校低学年であるが不登校やひきこもりなど含め対応
内容	家庭や学校以外に居場所の必要な子ども 安心して居られる場所、学べる場所の提供 学習支援・生活スキル支援 ※保育所が決定するまでの間の子ども ※中・高校生には進路支援及び職業準備プログラムへの参加



2022/7月

放課後等デイサービス (定員10人)	小学生	中学生	高校生
発達障害のある子ども 放課後及び休業日の活動の場（生活・社会スキルの獲得、学習支援など）			
発達支援：「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」 「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」 家族支援：保護者が子どもに向き合うゆとりと自信回復をサポート 地域支援：障害児支援の専門機関として、一般的な子育て支援施策のバックアップ			

2024/4月

本部町拠点型子ども の居場所事業 (定員20人)	利用料無料 本部町に住所がある18歳未満の子ども
家庭や学校以外に居場所が必要な子ども 安心して居られる場所、学べる場所の提供	
本人支援：安心できる居場所の提供、生活・社会スキルの獲得、 学習支援、食事の提供など 家族支援：保護者が子どもに向き合うゆとりと自信回復をサポート 地域支援：行政・学校・医療機関・関係団体等との連携 （安全・安心のある地域づくり）	



## 大人サポート事業の評価

### 感染症等対応から学んだこと

- (1) 衛生管理の基本☞清潔・清掃・整理・整頓・習慣（仕事の質とルール）5Sを意識した生活スキル獲得（健康管理プログラムの作成）
- (2) 生活リズム☞「いつ」「どこで」「何する」スケジュール、「どのような方法で」手順づくり（時間管理プログラム作成）
- (3) 利用者一人ひとりの潜在能力に働きかける取り組み（相談支援・生活リハビリテーション・職業リハビリテーションの実施）
- (4) 利用者、職員共に「からだところの健康」を図るためサポート環境の充実（健康管理・時間管理プログラムの実践）
- (5) 健康管理サービスは財務に反映される
- (6) からだところの健康は人材不足のきっかけにもなる

### 【利用者状況及び課題】

- (1) 生活習慣病の増加(BMI/高血圧症・脂質異常症・血統高値)
- (2) 身体機能の低下(体重増・運動不足)に伴う事故対策
- (3) 生活習慣病に伴う内科疾患に関するリスク管理
- (4) 統合失調症等に関する前兆期、急性期、休息期、回復期の対応
- (5) 支援施設からグループホームへの意向支援の充実
- (6) グループホームからの自立支援の充実
- (7) 福祉的就労から自立支援の充実（働き続けたい当事者の思い）
- (8) 一般就労への移行支援の充実
- (9) 認定調査（サービス量）への家族の対応
- (10) 65歳問題（介護保険サービスへの移行）※国の見解本人希望を優先とされている※

### 【改善策】

- (1) コミュニケーション☞利用者及び職員の行動における「説明」と「同意」
- (2) 医療ケア（基礎疾患等と感染症の関連）に関する基礎理解の必要性
- (3) 生活リハビリテーション実施に関する座学と実践事例研究の必要性（個別の状態理解シートの活用）
- (4) 感覚統合の理解に関する研修の必要性（障害特性とその対応）☞行動機能との関係（行動問題の事前対応 困りの原因→行動→結果）

### 【改善策の実施】

※支援プロセスの共有と表面化

※実践事例研究☞利用者自身が自己を知る。利用者の状況を理解する

ソーシャルスキルトレーニング(自分のことは自分でできることの課題分析や業務分析、日常生活スキルを学ぶ)

※2024年度事業計画の重点目標に掲げて実践する

## 事業所別サービス利用契約及び退所等の動態状況

事業所名	事業名	利用	契約理由	退所	退所理由
イッペー	放課後等デイサービス	00名		00名	
支援施設本部海陽園	入所支援事業	5名	①精神科病院からの退院 ②同居家族高齢 ③他法人グループホームからの移行（支援度の増加） ④グループホームからの移行（健康管理支援の増加）	3名	①他入所施設への移行 ②グループホームへの移行 ③医療ケアが必要となり医療機関へ移行
	生活介護	5名	入所支援事業利用理由と同じ	4名	①就労系事業所への移行 ②～④入所支援事業の退所理由と同じ
ライフサポート縁	共同生活援助	1名	本部海陽園より地域移行		
アガチュンもとぶ	就労継続支援事業	2名	4月1日 町内在宅から利用 園芸作業希望 4月1日 ゆいとびあから移動 園芸作業希望		
まちやーゆいとびあ	就労継続B型支援			2名 1名	他事業所への移行 アガチュンもとぶへの移行
	就労移行支援			1名 1名	他事業所への移行 一般企業就職

## 苦情に関する状況報告

苦情処理に関する状況						
事業所名	2022	本人	家族	地域	その他	合計
子ども第三の居場所事業	0					
イッペー						
みらい						
本部海陽園		1	1	0	0	2
ライフサポート縁		2		3		5
アガチュンもとぶ		0	0	0		0
まちやーゆいとびあ						

苦情内容						
事業所名	2022	1 姿勢・態度	2 サービス (質・量)	3 環境 (施設・設備)	4 その他	合計
子ども第三の居場所事業	0					
イッペー						
みらい						
本部海陽園		2	0	0	0	2
ライフサポート縁		1	1		3	5
アガチュンもとぶ						

## アタイハートネットワークにおける稼働率状況

	事業所	サービス区分	定員	年間延べ利用者数	稼働率
1	本部海陽園	入所支援事業	40名	14,191	96.9%
		生活介護事業	40名	12,479	115.2%
2	ライフサポート縁	生活援助事業	70名	23,648	88.7%
3	アガチューンもとぶ	就労継続支援事業	20名	5,978	114.3%
4	まちやーゆいとぴあ	就労継続支援事業	14名	7,792	108.0%
		就労移行支援事業	6名	569	34.0%
5	イッペー	放課後等デイサービス	10名	1,994	66.4%